

消費地情報

和歌山県農業協同組合連合会 北海道事務所 坂口知哉



はじめに

本県産における令和3年産夏果実の販売が梅・すももと続きました。その他ハウスみかんが5～8月にかけて販売されました。

北海道地区においては現在、メロン、スイカ、桃、さくらんぼが中心の品目構成となっており、特にメロン、スイカ、さくらんぼは北海道ブランドが大半を占めています。

主力品目の青梅では昨年・一昨年は気象等の影響で不作となり道内での需要量が満たされませんでした。今年は順調な生育となり安定的な販売ができました。出荷当初の6月上旬は気温が低く消費がやや鈍い傾向でしたが、中旬過ぎから気温が上昇して消費が活発になりました。

本年はコロナ禍の影響で、昨年に引き続き店頭試食宣伝販売・食育授業の中止等 Face to Face の消費宣伝活動が実施できませんでした。そこで、北海道事務所において感染症拡大防止の観点から販促資材の積極的な活用等情勢に見合った施策を行いました。今回はその活動について報告します。

消費宣伝活動

1 つ目はジップロックの進呈です。札幌市内の量販店を中心にケースで購入していただいたお客様に付録品としてジップロックをつけて進呈しました。店舗独自のPOPも作成していただき簡単に気軽に青梅を加工できることや、ジップロックを使った梅干し作りをPRしました。



進呈したジップロック



店舗独自作成のPOP



ジップロックと5kgケース



2 つ目は食育資材の寄贈です。札幌市内の小学校2校（札幌市立宮の森小学校・栄小学校）計215名のみなさまにトマト梅をはじめとした加工レシピ等の資材を寄贈しました。寄贈の際も感染症対策のため児童のみなさんとお会いすることができませんでしたが、大変喜んでいただくと後日連絡を頂きました。昨年に引き続き食育授業を実施できませんでしたが、来年度はウィズコロナの観点をから感染症対策を万全にして食育活動を行いたいです。



寄贈した食育資材

まとめ

昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかからず、店頭試食宣伝販売・食育授業等が実施できず本年も夏果実の販売が終了しました。国内では新型コロナワクチン接種が始まり少しずつではありますが、社会活動が変わりつつあります。しかし、大人数参加型のイベントや「密」が発生する消費宣伝活動が以前と同様に実施できるかどうか定かではない部分もあります。また、産地では生産者の後継者不足、消費地では若年層の食への関心低下・道内の人口減少等、農産物の販売を取り巻く環境は日々厳しくなっています。

そのような中ではありますが、アフターコロナ・ウィズコロナを意識して北海道事務所では若年層を主体としたより多くの方に本県産果実に興味を持っていただくため、消費宣伝活動を継続的に取り組みます。秋冬果実の販売が直前に迫ってきています。情勢に見合った新たな取組みを模索して引き続き秋冬果実の消費拡大に努め有利販売に取り組みます。